



地域とともにある学校づくり
推進フォーラム2023 茨城



第1部 座談会



地域とともにある学校づくり
推進フォーラム2023 茨城

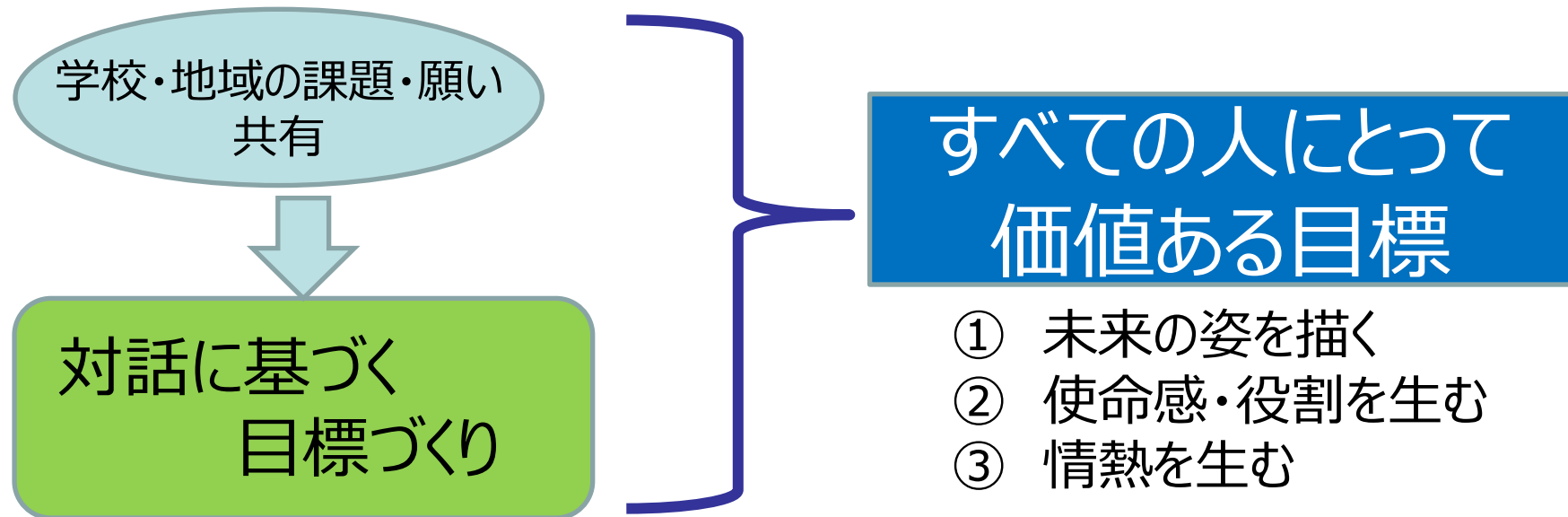
話題 1

「社会に開かれた教育課程」の実現



「社会に開かれた教育課程」の実現の第1歩 ～価値ある目標の設定・共有～

学校における教育課程の編成は、教育目標具現化に向けた取組の一つである。しかし、その教育目標が、社会と共有されていないならば、連携・協働も生まれない。子供たちに育みたい力を地域とともに考え、対話に基づく目標づくりが、すべての人にとって価値ある目標となり、「社会に開かれた教育課程」実現の第1歩となる。



熟議

- どんな子供を育てたいか(どんな力を身につけさせたいか)
- どんな学校にしたいか
- どんな地域にしたいか

本宮市立本宮まゆみ小学校 令和3年度学校経営・運営ビジョン

本宮市立本宮まゆみ小学校令和3年度学校経営・運営ビジョン

めざす学校の姿
～楽しさいっぱい、
笑顔はしげるまゆみ小～

- トライ＆エラーを安心して繰り返せる学校
- 地域とともにある学校

教育目標（令和3年度～令和8年度）

「楽しいこと考えよう！」

～しあわせを創るまゆみっ子（ハピネスクリエイター）の育成～

- ・新学習指導要領「社会に開かれた教育課程」
- ・第6次福島総合教育計画「ふくしまの和」で奏でるこころ豊かなたくましい人づくり
- ・本宮市教育振興基本計画
- ・本宮市学校教育指導の重点「笑顔あふれる共育のまちもとみや」

まゆみっ子につけたい4つの力（キャリア教育の「基礎的・汎用的能力」育成の観点から）

1 コミュニケーション力
(人間関係形成・社会能力)



だれにでも気持ちのいい
あいさつをする子の育成



- あいさつ運動の継続
- 教科・道徳・特活での意図的・計画的・継続的指導
- 代表委員会で子どもたち自身が企画

2 挑戦力
(自己理解・自己管理能力)



あきらめずに何でも
挑戦する子の育成



- マイノート(振り返りシート)の活用
- 業間運動の推進
- 生活チェックシートの実施

3 創造(想像)的思考力
(課題対応能力)



自分の知識や経験と
つなげて考える子の育成



- 生活経験や既習事項を関連させた課題設定
- 互いの考えをよく聞き、伝え合う授業の実践

4 情報活用力
(キャリアプランニング能力)



情報をうまく
活用する子の育成



- タブレットの基本的操作の習得
- 情報収集能力の育成(本、資料集、辞書、地図帳、インターネット など)

重点目標（令和3～5年度）

実践事項（令和3年度）

めざす教師の姿

- ★子どもと共に学び続け、成長する教師
- ★同僚性を発揮し、チームとして子どもにかかわる教師
- ★温かく子どもの心に寄り添う教師

めざす保護者の姿

- ★先生との信頼関係を大切に、共に子どもの成長を見守る保護者
- ★子どものチャレンジを全力で応援する保護者
- ★子どもと同じ目線で考え、個性を尊重する保護者

めざす地域の姿

- ★大人も子どもも気軽に声をかけ合い、元氣なあいさつができる「おせっかい」な地域
- ★子どもの安心・安全のため積極的に子どもにかかわる地域

まゆみっ子を支えるベース



- 関係性の整理【シャフト・エンジン・エネルギー源は熟議（学びあい）】
 - 「目指す子ども像」の実現には、学校と地域の連携・協働が不可欠
 - 「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」をつなげて好循環を生み出す軸（シャフト）としての「社会に開かれた教育課程」
 - 教育課程とリンクするからこそ、学校づくりと地域づくりを意図的・計画的・継続的に推し進めることができる（9年間を見据えた総合）。



- ◎ **子どもの問題を中心とした学校を取り巻く教育課題について大人同士が協議する場の必要性**
 - **コミュニティ・スクールの有効性（エンジンとしてのCS）**
 - **熟議（学び）をエネルギー源に！**

- △ **しかし、ワークショップ等を通して行われる対話や熟議自体に満足してあとに続かなかつたり、“学校の本丸”ともいえる教育課程を学校運営協議会で議論の俎上に載せて、地域とともに改善しようとする学校がそもそも少ない、。**
 - **学校支援活動や放課後・土日における教育課程外の活動といった、いわば“学校の二の丸や外堀における取組”が地域学校協働活動のメインとなっているのが現状といえる。**

- ☆ **教育課程という本丸にも踏み込み、学校にかかわる大人たちが対話や熟議を通して考え、ブラッシュアップした実践を行ってほしい。それこそが「社会に開かれた教育課程」の実現に近づく道（方法）！**



地域とともにある学校づくり
推進フォーラム2023 茨城

話題 2

不登校対応



- コミュニティ・スクールは、**学校が抱える不登校問題にも効果を発揮している。**
 - 学校運営協議会で子どもを取り巻く課題等について対話を重ねて学校の実態、困り感を共有し、生徒指導上の課題解決にも取り組んでいる。
 - 主任児童委員等もつとめる学校運営協議会委員が中心

- △ ここで注意が必要なのは、不登校支援の考え方が変わってきている点である。文部科学省によると、不登校を「心の問題」としてのみ捉えるのではなく、**広く「進路の問題」として捉え、「社会的に自立すること」を目指す必要**があるとしている。
 - 学校への復帰を目指した支援を否定するわけではないが、このような不登校支援の変化を理解せず、**これまでの学校への適応や学校復帰を強調する考え方のままでは、対応を誤ってしまうおそれもあるだろう。**

- そうならないためには、学校にかかわる大人たちが自身の価値前提にまず疑問を呈し、既存の価値観や知識等が時代遅れになっていたり、妥当性を欠いたものになっている場合には、それを積極的に捨て去り、より妥当性の高い新しいものに置き換える「アンラーニング（unlearning）」という学びが必要とされる(安藤2019)。とくに、不登校支援の考え方の変化のように、これまでの支援のあり方が時代遅れになっていたり、「つらくても学校に毎日行くべきだ」という大人自身が少なからずもっている学校観が妥当性を欠いて障壁となっている場合には、それをアンラーニングしたうえでの支援を考えなければならない。
- ☆ このアンラーニングについて、哲学者の鶴見俊輔は「学びほぐし」という絶妙な訳をつけている。キーワードは学びほぐし

本宮市立本宮まゆみ小学校 令和3年度学校経営・運営ビジョン

本宮市立本宮まゆみ小学校令和3年度学校経営・運営ビジョン

めざす学校の姿
～楽しさいっぱい、
笑顔はしげるまゆみ小～

- トライ＆エラーを安心して繰り返せる学校
- 地域とともにある学校

教育目標（令和3年度～令和8年度）

「楽しいこと考えよう！」

～しあわせを創るまゆみっ子（ハピネスクリエイター）の育成～

- ・新学習指導要領「社会に開かれた教育課程」
- ・第6次福島総合教育計画「ふくしまの和」で奏でるこころ豊かなたくましい人づくり
- ・本宮市教育振興基本計画
- ・本宮市学校教育指導の重点「笑顔あふれる共育のまちもとみや」

まゆみっ子につけたい4つの力（キャリア教育の「基礎的・汎用的能力」育成の観点から）

1 コミュニケーション力
(人間関係形成・社会能力)



だれにでも気持ちのいい
あいさつをする子の育成



- あいさつ運動の継続
- 教科・道徳・特活での意図的・計画的・継続的指導
- 代表委員会で子どもたち自身が企画

2 挑戦力
(自己理解・自己管理能力)



あきらめずに何でも
挑戦する子の育成



- マイノート(振り返りシート)の活用
- 業間運動の推進
- 生活チェックシートの実施

3 創造(想像)的思考力
(課題対応能力)



自分の知識や経験と
つなげて考える子の育成



- 生活経験や既習事項を関連させた課題設定
- 互いの考えをよく聞き、伝え合う授業の実践

4 情報活用力
(キャリアプランニング能力)



情報をうまく
活用する子の育成



- タブレットの基本的操作の習得
- 情報収集能力の育成(本、資料集、辞書、地図帳、インターネット など)

重点目標（令和3～5年度）

実践事項（令和3年度）

めざす教師の姿

- ★子どもと共に学び続け、成長する教師
- ★同僚性を発揮し、チームとして子どもにかかわる教師
- ★温かく子どもの心に寄り添う教師

めざす保護者の姿

- ★先生との信頼関係を大切に、共に子どもの成長を見守る保護者
- ★子どものチャレンジを全力で応援する保護者
- ★子どもと同じ目線で考え、個性を尊重する保護者

めざす地域の姿

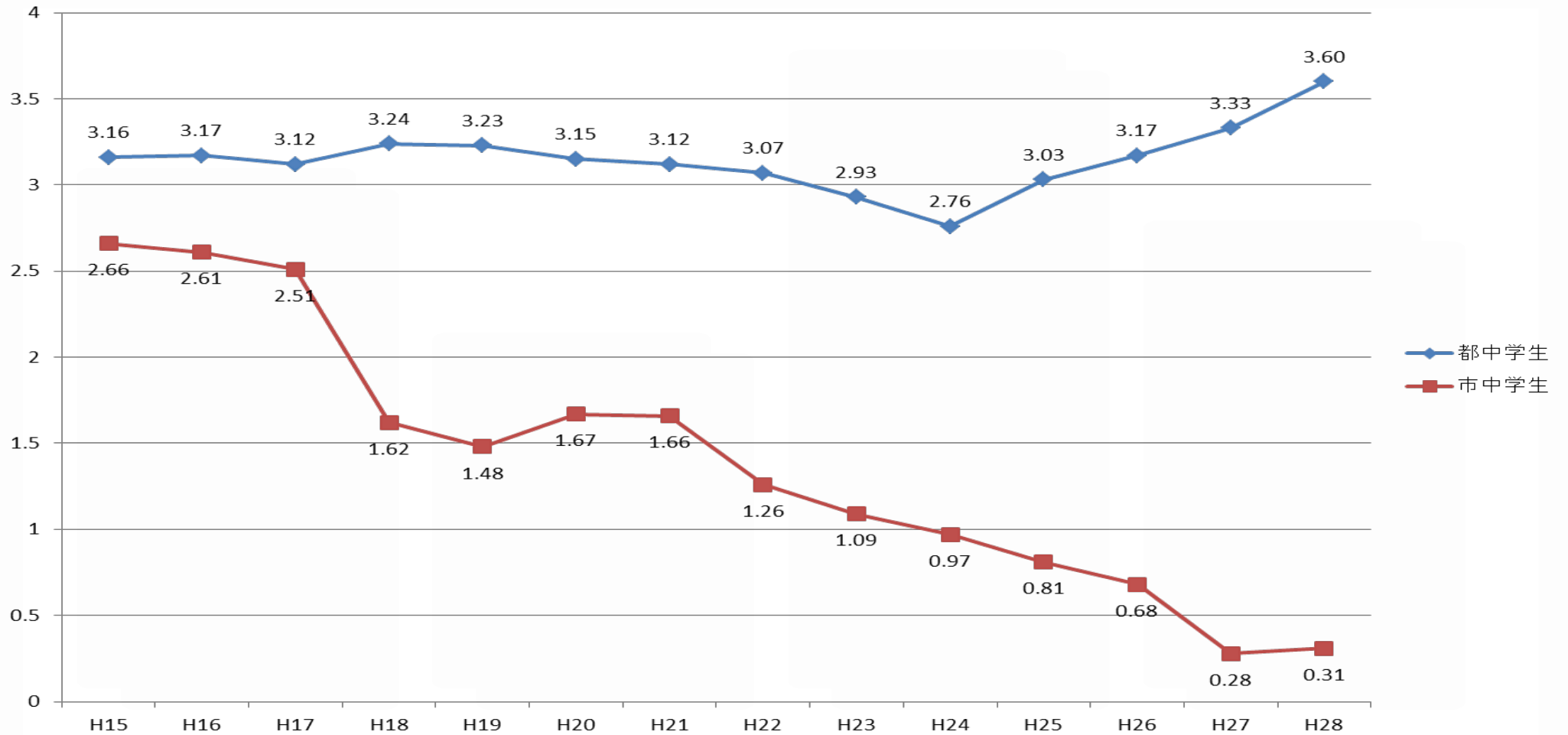
- ★大人も子どもも気軽に声をかけ合い、元氣なあいさつができる「おせっかい」な地域
- ★子どもの安心・安全のため積極的に子どもにかかわる地域

まゆみっ子を支えるベース



三鷹市の中学生の不登校出現率

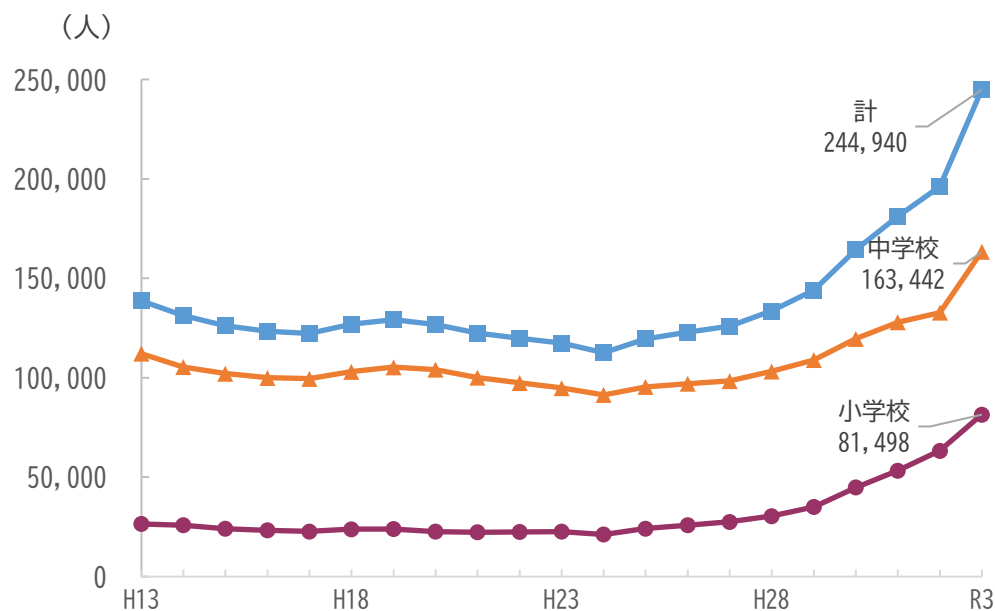
(平成18年～コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育を開始)



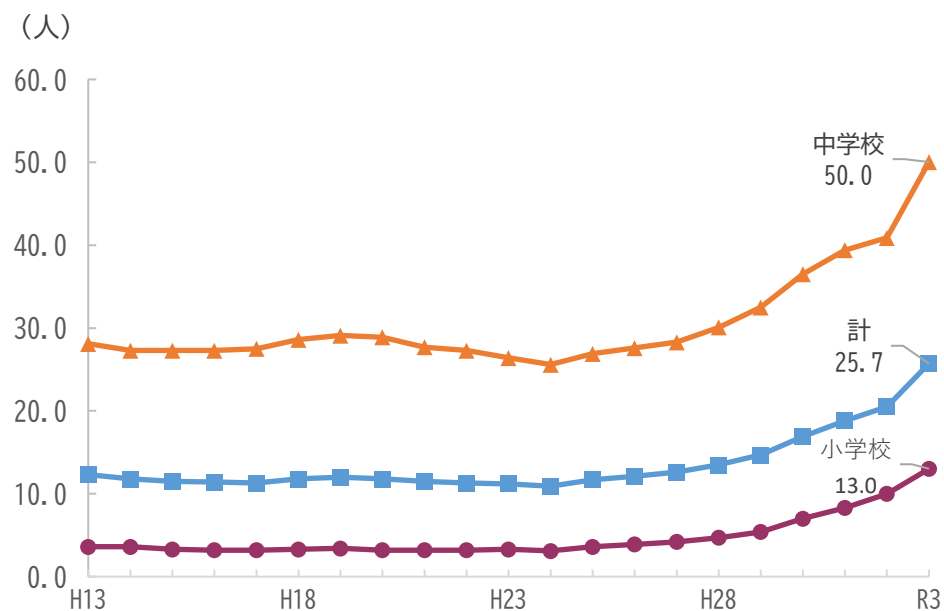
小・中学校における不登校の状況について

- 小・中学校における長期欠席者のうち、不登校児童生徒数は244,940人(前年度196,127人)であり、児童生徒1,000人当たりの不登校児童生徒数は25.7人(前年度20.5人)。
- 不登校児童生徒数は9年連続で増加し、過去最多となっている。

不登校児童生徒数の推移



不登校児童生徒数の推移 (1,000人当たり不登校児童生徒数)

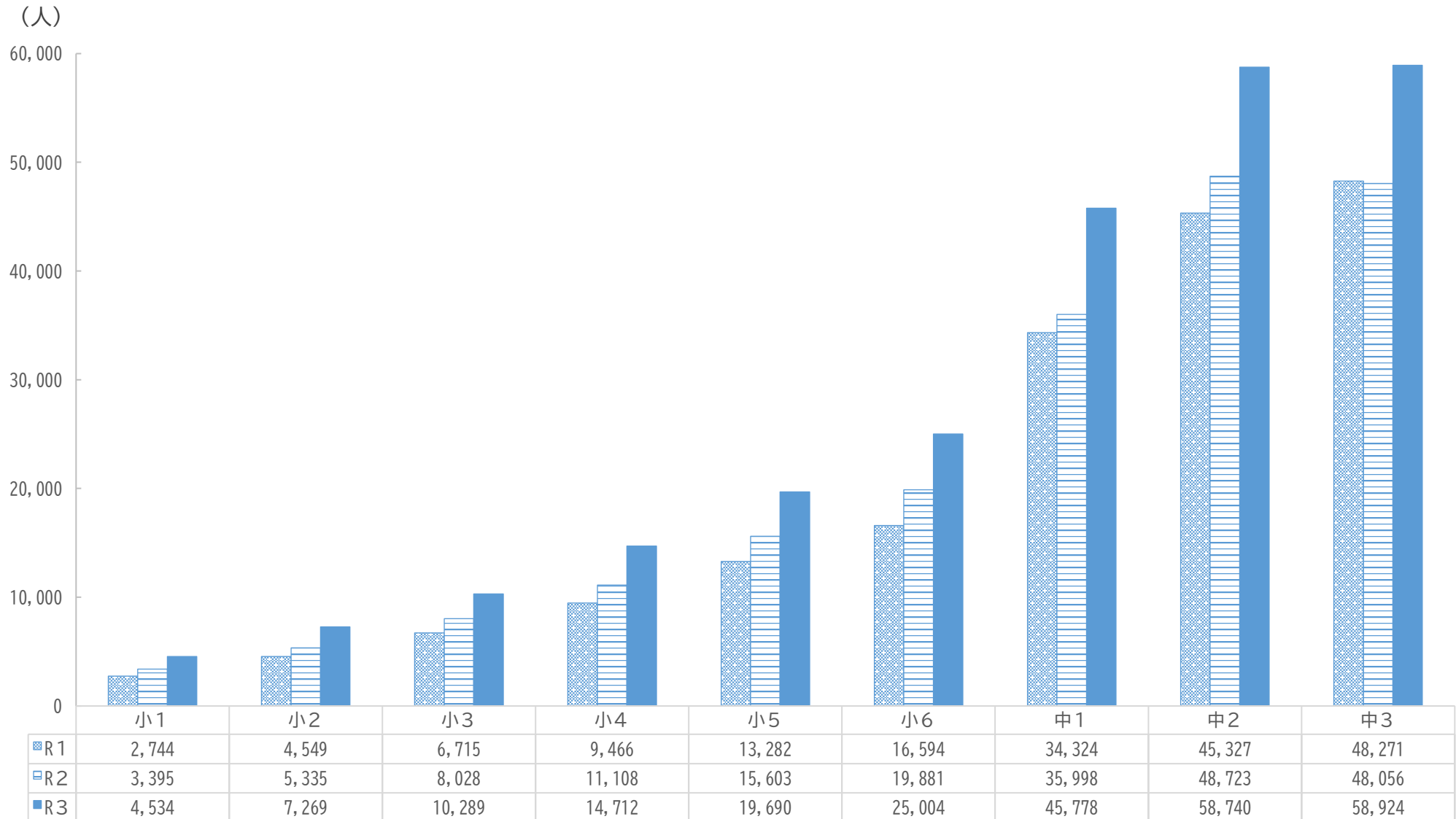


不登校児童生徒数(上段)と1,000人当たりの不登校児童生徒数(下段)

	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
小学校	26,511	25,869	24,077	23,318	22,709	23,825	23,927	22,652	22,327	22,463	22,622	21,243	24,175	25,864	27,583	30,448	35,032	44,841	53,350	63,350	81,498
	3.6	3.6	3.3	3.2	3.2	3.3	3.4	3.2	3.2	3.2	3.3	3.1	3.6	3.9	4.2	4.7	5.4	7.0	8.3	10.0	13.0
中学校	112,211	105,383	102,149	100,040	99,578	103,069	105,328	104,153	100,105	97,428	94,836	91,446	95,442	97,033	98,408	103,235	108,999	119,687	127,922	132,777	163,442
	28.1	27.3	27.3	27.3	27.5	28.6	29.1	28.9	27.7	27.3	26.4	25.6	26.9	27.6	28.3	30.1	32.5	36.5	39.4	40.9	50.0
計	138,722	131,252	126,226	123,358	122,287	126,894	129,255	126,805	122,432	119,891	117,458	112,689	119,617	122,897	125,991	133,683	144,031	164,528	181,272	196,127	244,940
	12.3	11.8	11.5	11.4	11.3	11.8	12.0	11.8	11.5	11.3	11.2	10.9	11.7	12.1	12.6	13.5	14.7	16.9	18.8	20.5	25.7

小・中学校における不登校の状況について

学年別不登校児童生徒数



出典：文部科学省「令和3年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」



地域とともにある学校づくり
推進フォーラム2023 茨城

話題3

学校における働き方改革



◎ 教師のこれまでの働き方の見直しを通して、「子供たちに対して効果的な教育活動を行うことができるようになる」ことが学校における働き方改革の真の目的！

→「真の目的」の理解がポイント

→学校における働き方改革は、「学校組織全体の総合力の向上」と「教員の長時間勤務の是正」という「二兎を追う学校づくり政策」に位置づき（藤原2019）、解決が難しい課題といえる。

☆ しかし、二兎を追う難題だからこそ、コミュニティ・スクールというツールを活用し、教職員とは異なる視点をもった大人たちによる対話と熟議を通じた学びあいによって解決していくことが求められる。

→拡大学校運営協議会の有効性

→「とんど祭り」をきっかけにした岡山県の事例

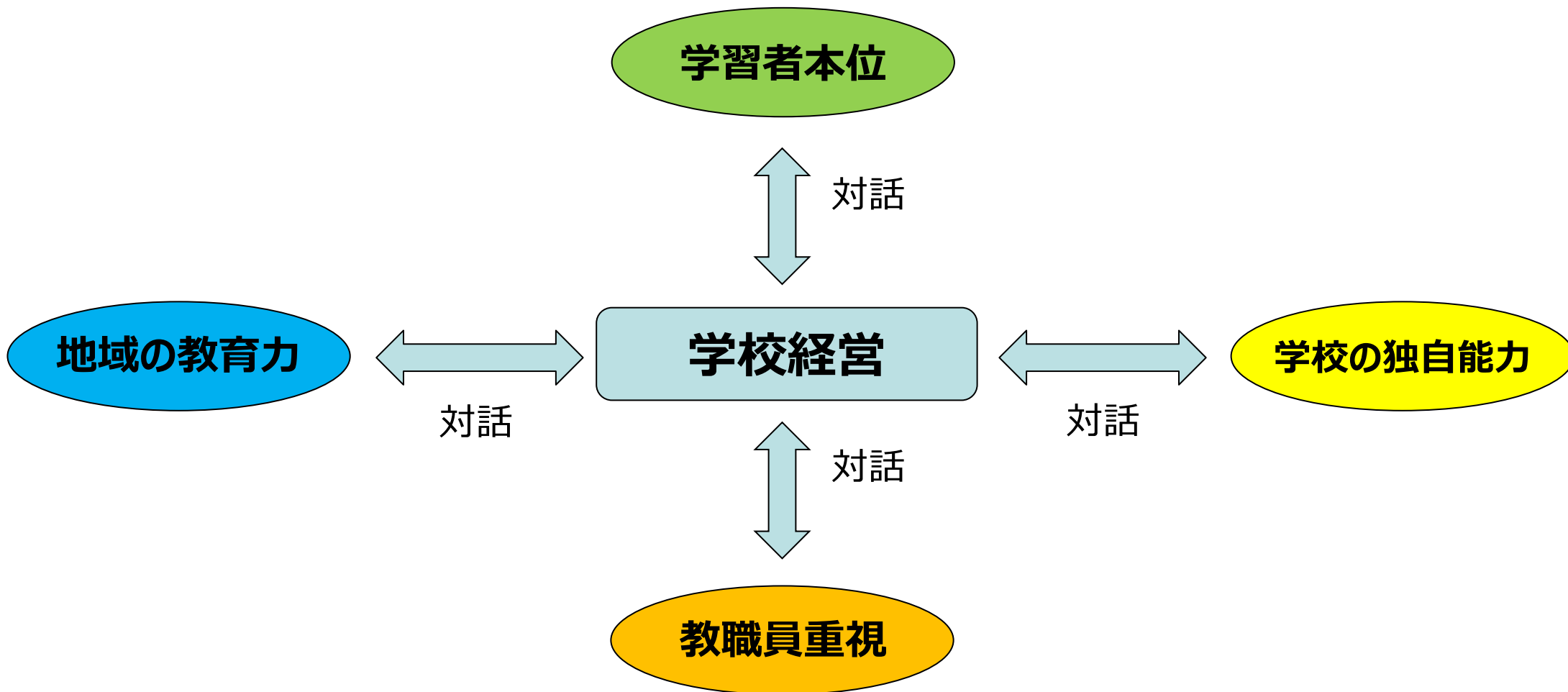
→学校行事から地域の行事へ

- 「これまでの地域学校協働活動の棚卸し」を行ったうえで、学校運営協議会での対話や熟議を通して学校の役割だけでなく、家庭や地域の役割も含めて、つまり**学校・家庭・地域の全体的なつながりと相互作用のなかで見直すことで、教職員の勤務負担軽減につながった点が示唆的**

- ☆ この取組は学校側による一方的な業務削減によるものではない。学校運営協議会での学校にかかわる大人たちによる評価・改善活動の「アウトプット（結果）」が地域行事としてのとんど祭りの実施であり、それを**契機に同校の「目指す子ども像」を実現するために知恵を出し合って、より効果的な教育活動が展開されたこと**の「アウトカム（効果・成果）」として、二兎を追う学校における働き方改革が進んだと考えられる。
→CSの波及効果としての「学校の働き方改革」

学校における働き方改革

学校経営の基本理念～「四つの対話」と「四つの満足」の重視



教職員一人一人を重視し、職場環境の満足度を高めなければ、学校経営の充実は図れない。

熟議

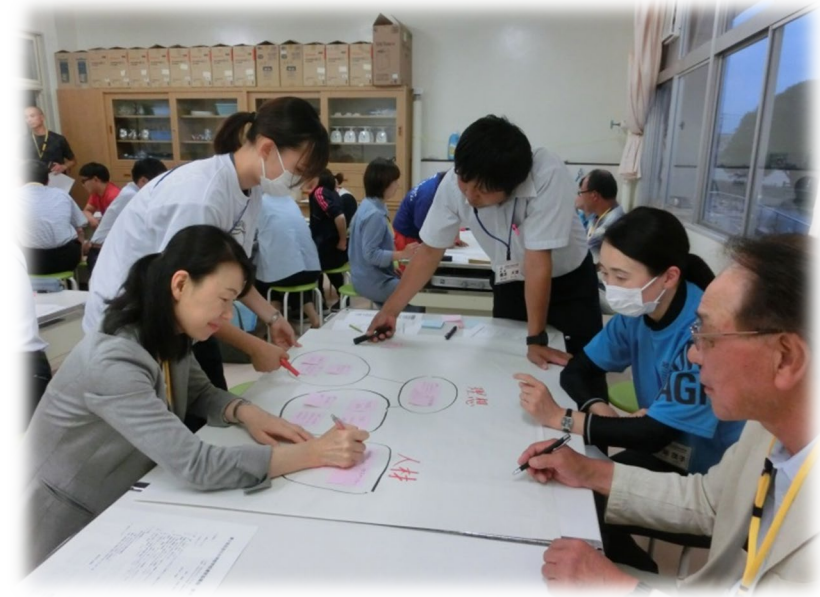
- 熟議テーマ 「教職員の子供と向き合う時間をどう確保するか」
- 参加者 学校運営協議会委員 教職員（ほぼ全員） PTA役員
- 出された主な意見
 - ・ 保護者や地域が協力できることをやる。
 - ・ 教職員の仕事の大変さを理解する。
 - ・ 保護者や地域がやるべきことを学校に押しつけない。
 - ・ 仕事量を減らす（行事の精選）
- 熟議から生まれた取組
 - ・ 学校評価の外部アンケートのICT化
 - ・ 教職員の朝の交通指導の取りやめ 等



最大の成果は・・・

保護者・地域住民が、教職員の職務の大変さを理解してくれたこと

熟議は、相互理解と信頼関係構築の場→合意形成へ



(本宮市立五百川小学校の熟議)

- ▲ コミュニティ・スクールを導入しさえすれば、学校が抱える課題を解決できるわけではない。
- ◎ **不登校や学校における働き方改革といった現在の学校が抱える課題解決の鍵は、コミュニティ・スクールの積極的な活用による、学校にかかわる大人同士の「学びあいと学びほぐし」が握っている。**
 - 教育課程を学校の「聖域」と見なす考え方、不登校をめぐる固定観念、勤務時間管理の徹底が働き方改革の「目的」とする考え方などの「学びほぐし」が大切！
 - **学びほぐしは、学習者の基礎的な前提に疑問を投げかける周囲の人によって刺激を受けることによって促されるという。つまり、彼らの前提や価値観を揺さぶり変容を促すには、「異質な他者」の存在が欠かせない。その意味でも、学校運営協議会の委員にとどまらない、大人同士の「学びあい」の機会を質量ともに充実させていくことが重要である。**

- ① 安藤史江『コア・テキスト 組織学習』新世社、2019年。
 - ② 藤原文雄編『「学校における働き方改革」の先進事例と改革モデルの提案』学事出版、2019年。
 - ③ 鶴見俊輔『教育再定義への試み』岩波書店、1990年。
 - ④ 熊谷慎之輔・志々田まなみ・佐々木保孝・天野かおり『地域学校協働のデザインとマネジメント：コミュニティ・スクールと地域学校協働本部による学びあい・育ちあい』学文社、2021年。
 - ⑤ 熊谷慎之輔「『岡山型地域学校協働活動』のススメ」『教育時報』岡山県教育委員会、2023年6月号、pp.4-7。
- ☆ 熊谷慎之輔編『岡山発！地域学校協働の実践と協創的教員養成：「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて』福村出版、2023年。